繁殖後のカンムリウミスズメはどこに？
非繁殖期の分布状況調査

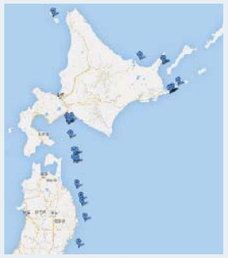
５月頃に伊豆諸島で繁殖を終えたカンムリウミスズメは営巣地を離れ、１月頃に再び戻ってきます。その間は太平洋北部に北上することが知られていますが、具体的な場所や移動経路は良く分かっていません。そこで当会では、６月頃から１月頃にかけての非繁殖期のカンムリウミスズメの分布状況を把握するために目撃情報の収集を行ない、また、その情報を元に、現地調査を行ないました。

目撃情報の収集

当会では、日本各地で確認されたカンムリウミスズメの目撃情報をホームページ内で募集し、地図にまとめています。現在までの登録情報では、６月から９月の間に太平洋に面した東北の各地でカンムリウミスズメが目撃されていますが、個体数にはばらつきがあり、移動経路などを具体的に調べるにはもっと多くの情報が必要です。そこで、皆さまからの目撃情報をお待ちしています。

目撃情報の収集地図
（赤ピン：繁殖期・青ピン：非繁殖期）

非繁殖期のカンムリウミスズメ


目撃情報(東北・北海道)

情報はこちらへ https://www.wbsj.org/form/nature/sw/form.html

非繁殖期の洋上調査

８月26日、非繁殖期の生息調査を北海道東部の浜中町沖で行ないました。NPO法人エトピリカ基金の調査員６名と共同で午前９時から調査を行なった結果、５時間半で計６羽のカンムリウミスズメを発見し、夏には道東に生息している個体がいることを改めて確認しました。これらの営巣地や、どのような移動経路をたどってここまできたのかを明らかにしていくことが、今後の課題となりました。

漁船の左右に分かれてカンムリウミスズメを探す

これからの予定

現在までに、繁殖期の伊豆諸島における分布状況や個体数、繁殖状況が明らかになったほか、非繁殖期の分布状況の一部も把握することができました。今後は法的な保護が行なわれていない繁殖地の鳥獣保護区指定による保全　、人工巣の確立による繁殖環境改善と繁殖つがい数の増加、エコツーリズムの推進による地域での保護活動の活性化などを目指した事業を進め、カンムリウミスズメを保護します。

カンムリウミスズメとは

カンムリウミスズメは、推定個体数が5,000～10,000羽（環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類）の海鳥です。
日本近海の洋上で生活し、繁殖期には人が近づけない離島の岩の隙間などに営巣します。そのため生息状況や生態は十分に把握されておらず、保護対策も十分には講じられていません。また、観察する機会も少ないことから、誰にも気づかれないうちに激減してしまう可能性があります。

数が減っている理由は？

カンムリウミスズメの繁殖地に釣り人が立ち入った時に一緒に入ってきたネズミや、捨てられたまき餌に集まるカラス類などによって卵やヒナ、時には成鳥が食べられてしまう被害が出ています。また、重油による海の汚染など海洋環境の悪化も原因のひとつと考えています。

カンムリウミスズメ保護プロジェクト　2013年事業報告
2014年12月発行
公益財団法人　日本野鳥の会　保全PJ推進室
東京都品川区西五反田3丁目9番23号　丸和ビル
TEL 03-5436-2634　FAX 03-5436-2635
Email sanc@wbsj.org

Annual Report

カンムリウミスズメ保護事業　2013年度活動報告書

公益財団法人
日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

Amour de la mer.

日本野鳥の会は、2009年から海の環境保全を目的にカンムリウミスズメの保護事業に取り組んでいます。
2011年までの3年間は、伊豆諸島での生息状況調査によって本種の繁殖状況や洋上での分布を明らかにしました。
2012年からは非繁殖期の分布を調べるために青森・岩手・宮城・福島などの東北地方を太平洋沿いに北上するとともに、コンサートなどの普及活動を展開。さらに、抱卵中の動画撮影にも成功しました。
そして５年目を迎えた2013年度も、生息地の保護と個体数の増加を目標に、保護や普及に取り組みました。

日本野鳥の会の取り組み

保護

繁殖状況モニタリング調査（2009年～）
繁殖個体数や繁殖状況に変化がないかを確認するための調査です。この調査を継続することで、異常があれば早期に発見し、措置を取ることができます。
- 上陸調査　カンムリウミスズメの繁殖地に上陸し、繁殖の有無や巣の数を記録します。
- 洋上調査　本種が採餌のために海上へ出てくる夜間から早朝にかけて、繁殖地の島を周回し個体数を記録します。

非繁殖期の洋上分布調査（2010年～）
繁殖後の生息地や移動経路がよく分かっていないカンムリウミスズメの生息海域を調査し、保全すべき海域を明らかにします。

人工巣設置実験（2010年～）
繁殖個体数や繁殖成功率の増加を目指すために、人工巣を設置して営巣可能な条件を探ります。
繁殖状況モニタリング調査の際に、自然巣の形状や位置などを調べ、人工巣の改良に活用します。

普及

多くの方にカンムリウミスズメの置かれている状況を知ってもらい、本種の保護のために一緒に行動できる人を増やすための活動です。繁殖地周辺に住む住民に向けて、コンサートや講演会などを行ないます。

2013年度の伊豆諸島での活動

神子元島（みこもとじま）

下田港から南へ約11kmの沖合にある無人島。卵殻などによる繁殖確認があり、2010年から人工巣を設置しています。

上陸調査

4月23日に上陸し、営巣の有無を確認するために島内全域を踏査しました。島北部の岩場で1巣(2卵)と成鳥2羽を発見！31年ぶりの直接的な繁殖確認となりました。夜間には鳴き声による生息状況調査を島の北・東・西側の3定点で行ない、全定点で複数の鳴き声を確認しました。昨年度の調査でも多数の鳴き声と卵殻が確認されており、今年度も複数のカンムリウミスズメが本島を利用していることが確認できました。

巣から出てきた成鳥

人工巣調査

繁殖状況調査と併せて、島内２カ所に設置している人工巣の利用状況の確認を行ないましたが、2013年度も人工巣が利用された痕跡はありませんでした。今後は、繁殖状況モニタリング調査によって得た結果を参考に、人工巣の形状や設置場所に改良を加えていく予定です。

人工巣の利用の有無を確認する

神津島・祇苗島（ただなえじま）

神津島の東から約1kmに位置する無人島。島の上部はスゲ類が茂り、オオミズナギドリやオーストンウミツバメの繁殖地にもなっています。当会では2009年から上陸調査を行ない、海に面した岩場で毎年繁殖を確認しています。

上陸調査

４月16日に上陸し、営巣状況の調査を行ないました。昨年の営巣場所に近い岩のすき間に、抱卵中と思われる成鳥を発見！卵も確認しました。併せて、人工巣改良に活用するため、巣の形状なども調べました。島内では、10羽以上のハシブトガラスと捕食された死体が観察されたことから、今後は捕食者の影響についても調べる必要があると考えられます。

抱卵中の成鳥

講演会ｉｎ神津島

神津島では、カンムリウミスズメを観察するエコツーリズムを実施するために、本種の生態やツアーの事例を学ぶ勉強会が開催されています。2014年1月28日と3月25日には、島の観光関係者や漁業関係者など20人の参加者に講演し、エコツアーを行なう際のルールの紹介や実践に向けての取り組み、学校プログラムへの導入について、参加者と積極的な意見を交わしました。次年度も引き続き、神津島での取り組みを支援していきます。

島内のエコツアー実施について話し合う

新島・地内島（じないじま）

新島の南西にある無人島。2011年の上陸調査では繁殖の痕跡は見つかりませんでしたが、2012年の夜間の洋上調査で島付近に多数の本種が確認されたことから、繁殖の可能性は高いと考えられます。

洋上調査

4月18日の19時から午前0時まで、漁船に同乗して島周辺の洋上調査を行ないました。日没と共に鳴き交わす声が船の周囲で間断なく聞かれ、地内島近辺には相当数のカンムリウミスズメが生息していることが確認されました。

アカイカ漁の漁船に同乗し、夜間調査を実施

新島・根浮岬（ねぶざき）

新島の北端に位置する、切り立った崖や転石のある磯場。これまでに卵殻などの痕跡による繁殖確認があり、2012年にも営巣を確認しています。

上陸調査

4月18日に上陸し、目視による繁殖確認調査を行ないました。その結果、岩の間のわずかな隙間におよそ12巣を確認！四方を巨大な岩に囲まれた幅の狭い隙間の奥や、3つの岩が組み合わさった天井のない開放的な空間など、様々な形状の巣を観察しました。今回得た岩場の営巣地の情報を元に、人工巣の改良に着手する予定です。

セミナーｉｎ新島

昨年度行なった企画展(新島村博物館)や「カンムリウミスズメと海」のコンサートに続き、本種についてより具体的な生態を学ぶためのセミナーを1月19日に行ないました。参加者からは、カンムリウミスズメを身近に感じ、今度は実際にその姿を見てみたいという声が数多く寄せられました。

観察会ｉｎ新島

５月25日に新島でカンムリウミスズメ観察会（主催：新島自然愛好会）を行ないました。当日は14名が参加。荒天の中、２羽のカンムリウミスズメを観察しました。初めて見た参加者は、小さなその姿に驚くとともに、実際に見たことでより親しみを感じ、彼らが暮らす環境の重要性に気づいたようでした。これを機に、新島でのエコツアーの導入に向けて働きかけていきます。

三宅島・大野原島（おおのはらじま）

三宅島から約10km西の沖合にある岩礁で、三つの突岩（とつがん）が見えることから別名「三本岳(さんぼんだけ）」とも呼ばれています。1995年から毎年、三宅島自然ふれあいセンター・アカコッコ館のレンジャーを中心に周辺海域の洋上調査が行なわれています。

洋上調査

５月14日に当会職員と三宅島自然ふれあい友の会が共同で調査を実施しました。当日は海面が鏡のように見えるほどの凪でカンムリウミスズメが浮かぶ姿が良く見え、３時間で計152羽を確認！　５、６羽で泳ぐ群れを観察しました。

舳(へさき)で目をこらす調査員

大野原島の周辺で発見した群れ